

Turnitin Feedback Studio ご使用方法

はじめに

Turnitin Feedback Studio をご使用頂きありがとうございます。

Turnitin Feedback Studio (以下 Feedback Studio) では、世界最大級の Turnitin データベースとの比較により、レポートのオリジナリティチェックを行うことができます。

ここでは Turnitin Feedback Studio を使い先生方がどのようにご自身、もしくは学生のレポートのオリジナリティチェックをするのかについてご説明致します。

ご使用の流れ

レポートのオリジナリティチェックを行う際の大まかな流れは以下のようになります。

① Turnitin にログインをする

「E メールアドレス」と「パスワード」によりログインします。 詳細はマニュアル P3 ~ をご参照

② クラスを作成する

レポート提出先のクラスを作成します。 詳細はマニュアル P9 ~ をご参照

③ レポートを提出する

作成したクラスにて、レポートを提出します。 詳細はマニュアル P10 ~ をご参照

④ オリジナリティレポートの閲覧

レポート提出後オリジナリティが生成されます。 オリジナリティレポートへのアクセス方法の詳細はマニュアル P37 ~ をご参照

オリジナリティレポートの閲覧についての詳細はマニュアル P41 ~ をご参照

クイックサブミット

レポートを提出するもう一つの方法として、クイックサブミットという機能があります。

これは、クラスを作成すること無しにレポートを直接提出し、オリジナリティをチェックできるという便利な機能です。

注意点としては、クイックサブミットを使用した場合提出したレポートは**必ず標準レポジトリに保存されます。**

標準レポジトリにレポートが保存されると、将来 Turnitin に他のユーザよりレポートが提出された場合、保存されたレポートの内容がオリジナリティチェックのために比較されます。他のユーザには類似性のみが告知され、レポート自体の内容は公開されません。

レポートの保存を避ける場合は、クラスを作成しレポートを提出する方法をお勧めします。

クイックサブミットの詳細はマニュアル P34 ~ をご参照下さい。